

# 序

わが国では、脳血管障害、神経変性疾患、神経筋疾患のような慢性的な神経障害をもたらす疾患に対する理学療法が、手術療法や薬物療法などに加えて治療選択肢の一つとなっています。わが国の急速な高齢人口の増加によって、こうした神経障害をもつ人々の数もまた増加の一途をたどることは明らかです。したがって、神経障害に対する理学療法の重要性はますます高まることが予想されます。しかしながら、これらの疾患の多くは複雑な障害像を呈するため、障害構造を理解し、さらにその解決をはかることは決して容易ではありません。

本書は、学生や卒業して間もない理学療法士の皆さんに、神経障害に対する理学療法をより理解しやすく、しかも興味をもっていただけるように、いくつか工夫した点があります。

例えば、本書では単に平板的な基本的事項の解説にとどまらず、具体的な症例を通じて、神経疾患患者の障害像を理解することをめざしました。そのうえで適切な評価を選択し、障害に即した基本的な理学療法を提供するために必要な「臨床思考能力」や「臨床判断」が育まれるよう、臨床場面を視野に入れた構成となっています。また、最近では、医学教育をはじめとして教育技法の主流となりつつある「問題基盤型学習 (problem-based learning : PBL)」を意識した記述となるように心掛けました。本書を通じて、神経障害の理学療法のスタンダードな考え方を学んでいただき、さらに実際に数多くの症例を経験することによって、より理解が深まることを望んでいます。

なお、紙幅の都合上、疾患特異的な評価法についての詳細は割愛しました。本書同シリーズ「リハビリテーション基礎評価学」(羊土社、2014年)をあわせて活用ください。また、より実践的な参考書として「ビジュアル実践リハ脳・神経系リハビリテーション」(羊土社、2012年)をあげておきます。

最後に、本書が神経障害に悩む多くの患者さんの抱える問題の解決に資することができれば幸いです。

2018年3月

潮見泰藏